

畜産試験場だより



完成した牛受精卵研修棟

- 1 場長あいさつ
- 2 飼料用トウモロコシの生育期における除草剤の利用
- 3 炭素率 (C/N比) とは?
- 4 第3回系統豚「トチギシ」枝肉共励会
- 5 ダチヨウのお話 (その1)
- 6 牛受精卵研修棟完成
- 7 畜産試験場案内図及び略図

場長あいさつ

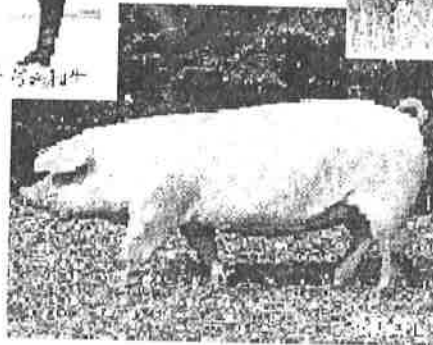
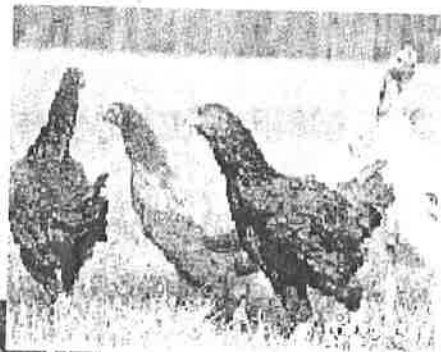
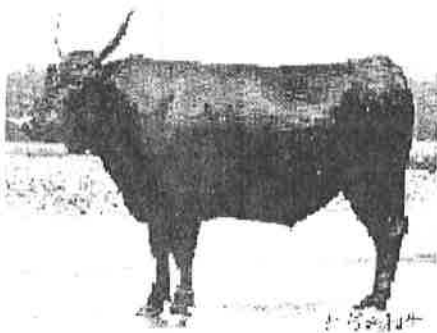
この度の異動で畜産試験場長になりました藤田繁です。よろしくお願い申し上げます。

21世紀をまじかにひかえ、変化の激しい、先行き不透明な時にあります。特に、畜産に於いては、国際化や消費の多様化、環境問題等非常に対応の厳しい時でもあります。

人間生活の基本は、衣・食・住であり、なかでも食糧については、安全、高品質、安価で安定的に確保されることが、21世紀に県民が健康で文化的な生活を送るための必須条件だろうと思っております。

幸い本県は、大消費地である首都圏に位置しながら豊かな自然や肥沃な大地等農業にとっての条件が整っており、県が進める「首都圏農業推進プラン」を実現することにより、本県の畜産が安定的に発展するものと思っております。

畜産試験場においても、省力・低コスト・高品質・安全性や環境保全等の新しい技術の開発に職員一同力を合わせ頑張ってまいりたいと思います。また、県民の皆様にとって身近な試験場となりますよう努めてまいりますので、どうぞ今後とも御理解、御支援をお願いし、簡単ですが就任のあいさつといたします。



飼料用トウモロコシの生育期除草剤の利用

トウモロコシの収量を確保するためには、**適品種の選定、適期播種、適期収穫**の3つの「適」を実行するとともに、**雑草防除**を的確に行うことが重要です。トウモロコシ栽培時の雑草防除は、アラコ-ル(ラッ)-乳剤)、アトラジン(ケサ)リム水和剤)等による播種直後の土壌処理が基本となっています。しかし、播種直後の除草剤散布は、天候や牧草の収穫作業等の影響で散布できない場合が少なくありません。

このような場合、トウモロコシ生育期除草剤ニコルフロン乳剤(ワホ-フ)の利用が有効です。ニコルフロン乳剤はトウモロコシ3～5葉期に全面散布する除草剤で、畑地の一年生雑草等に効果があり、播種直後に除草剤を散布できなかった場合に利用してはいかがでしょうか。但し、この除草剤は、夏の暑い時期に使用した場合、品種によって薬害が生じるとの報告があるため、トウモロコシの播種が6月以降に遅れた場合や遅播き専用品種を利用する場合は、使用しない方が良いでしょう。

参考までにトウモロコシの代表的な除草剤の使用方法を下表に示しましたが、その他詳細については、容器に記載されている使用上の注意事項を良く読み、安全で適正な使用を心がけてください。

(飼料部 本澤延介)

主なトウモロコシ除草剤の使用法

処理方法	薬 剤 名 散布量(10a 当り)	対象雑草	散布時期
土壌処理	アラコ-ル 250ml + アトラジン 150g } /100～150 ℓ (双方混合)	一年生雑草	播種後2～3日
茎葉処理	ニコルフロン乳剤 100～150ml/70～100 ℓ	一年生雑草	生育初期 (3～5葉期)



(病虫害雑草防除基準抜粋)

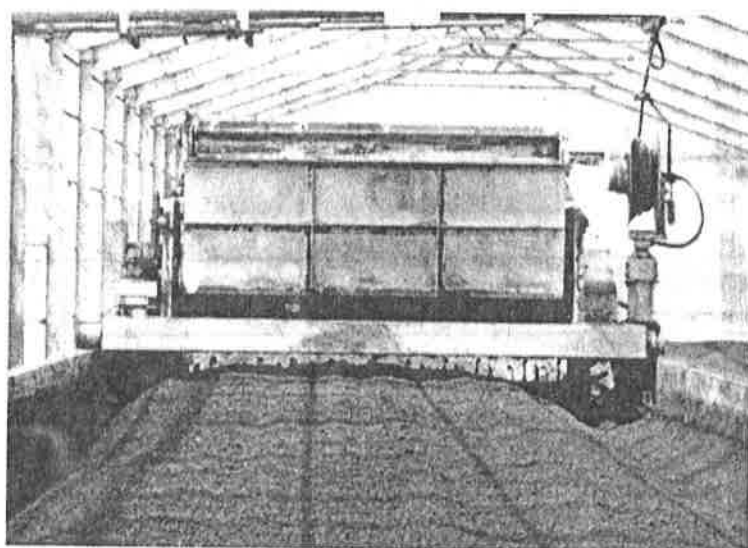
←トウモロコシ畑の代表的雑草「イチ」

炭素率 (C/N比) とは？

堆肥づくりのポイントについて、今回から数回に分けて技術を少し専門的に説明していきたいと思います。初回は、炭素率を取り上げて説明します。

堆肥を作る際のポイントとして、「初発堆積物の炭素率は30～35程度に調整することが重要である」と言われます。では、なぜ炭素率が堆肥化処理を行う際に重要となるのでしょうか？炭素率は、施用した土壌における微生物の有機物分解速度に影響します。十分に処理が行われていない炭素率の高い堆肥等をほ場に施用した場合は、残存する有機物を分解するため微生物が土壌中の窒素をも利用してしまい作物との間で窒素の奪い合いが生じてしまいます。そのため、作物は生育に十分な窒素を利用できなくなり窒素飢餓と言われる障害を引き起こします。生育障害等を考慮しても炭素率は、10～15程度であることが重要です。家畜ふんの場合は、排泄された直後であっても炭素率は既に

7～20程度であり、完熟堆肥のそれとほとんど変わりません。しかし、生の家畜ふんの場合は、有機物含有量（特に微生物が分解しやすい有機物）が多いため、土壌中で急激に微生物によって有機物が分解され、炭酸ガスやアンモニアガスが大量に発生し作物に悪影響を引き起こします。従って、生の家畜ふん等を直接ほ場に施用する事は好ましくなく、



作物の生育の面からも堆肥化処理が必要となるわけです。 (経営環境部 豊田知紀)

第3回系統豚「トチギL」枝肉共励会

去る3月25日、栃木県畜産公社において第3回系統豚「トチギL」枝肉共励会が開催されました。この共励会は栃木県系統豚利用推進協議会の主催で、本県産出ランドレス種系統豚「トチギL」を基礎とした斉一性の高い肉豚生産の普及定着を図り、県内養豚経営の安定化に資することを目的として平成7度から年1回開催されており、今回で3回目を迎えました。

今回は、県内全域から13名の養豚経営者が1群5頭単位で合計75頭の肉豚を出品し、審査委員長である当試験場青木前場長（現：食肉事業連事務局長）他5名の審査員により、格付状況や斉一性を考慮して審査が行われました。

その結果、群、個体いずれの部においても小山市の山中徳一さんが最優秀賞に輝きました。山中さんの出品豚は、格付では極上1頭、上4頭と上物率100%であり、枝肉の揃いも良好で、肉質、しまり、脂肪質等についても欠点なく優良なもので、全員一致で最優秀賞が決定されました。また、他の入賞者は下表のとおりとなりましたが、いずれの出品豚も優良で、僅差により順位がつく結果となりました。3回目を終えた共励会でしたが、開催の度に出品豚の質が向上してきています。その要因は系統豚「トチギL」の素質と管理する方々の技術の向上によるものと思われませんが、畜産試験場は今後とも「トチギL」で養豚経営を応援したいと考えています。

（養豚部 野澤久夫）

表 共励会入賞者

	群の部	個体の部
最優秀賞	山中 徳一	山中 徳一
優秀賞	上野 和明	大柿 清
優良賞	大柿 清	豊田 浩之
優良賞	全畜連	全畜連



ダチョウのお話（その1）

今、特用家畜として話題となっているダチョウはアフリカ原産の動物で、現在、野生で確認されているものは6品種となっています。この他に家畜として育種改良された「アフリカンブラック」という品種が存在し、一般に家畜としてのダチョウといえばこれを指します。この品種の歴史は意外に古く、1800年代中頃にまで遡^{さかのぼ}ることが出来ます。特徴は産卵数が多く、性格が温順で早熟な点です。また羽根の品質に優れており、これはアフリカにおける家畜化の背景が、ヨーロッパからの装飾用の需要に応える形で行われてきたことと関係があります。

ダチョウの生産物としては、食肉、たまご、^{ひかく}皮革、羽根等が挙げられます。肉の収量は生体100kgに対し33.5kg程度で、味は馬肉に近い感じです。近年、欧米では低カロリー、低コレステロールで注目を集めています。たまごの重量は1.5kg程度と、鶏のたまご約30個分に当たります。また、たまごの殻も工芸製品などに利用されています。皮革は、高級皮革製品として、ダチョウの用途としては最も一般に浸透しているものです。羽根については装飾用の他、羽根ぼうきとしても利用されます。



このように多くの用途が考えられますが、家畜としての出発点が装飾用の羽根の採取であることから、それ以外の用途に対する改良はいまだ未完成で、逆に畜産物として大きな可能性があるともいえ、畜産分野の多様化という観点から注目していく必要があると思われます。

（養鶏部 野口宗彦）

牛受精卵研修棟完成

畜産試験場は県内のE Tセンターとして、農家で飼育されている優秀な黒毛和種繁殖雌牛の採卵を毎年約100頭程度実施しております。

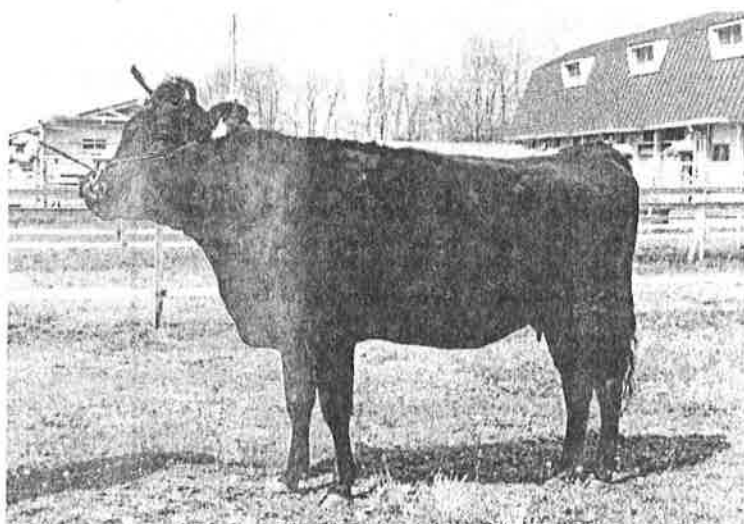
しかし、場外の牛を場内で採卵することは、場内で試験研究のため飼養している家畜の防疫面から必ずしも好ましいことではありません。

このようなことから、場内家畜の家畜防疫に影響なくE Tセンターとして対応するため、平成9年度国庫事業で受精卵研修棟が建設され、平成10年3月完成しました。

今後、E Tセンターとして実績のある酪農試験場及びびわこセンターである各家畜保健衛生所、更には各農業改良普及センター等と連携を持ちながら、受精卵移植技術の向上を目指す獣医師に対し、施設を有効活用した受精卵移植関連技術研修をとおして、本県畜産の発展に少しでも役立てるようにと考えております。

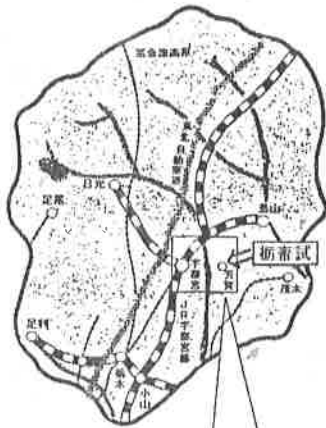
本年度から当施設の本格的な利用がスタートします。研修日は原則として毎週火曜日といたしますので、多くの受精卵移植関係者の方々のご活用をお持ちしております。また、研修日、研修方法等のご要望があれば可能な限り、対応したいと考えておりますので、畜産試験場までお問い合わせください。

(肉牛部 小島浩一)



スーパー和牛「とよくに」(大分県産)

案内図



栃木県畜産試験場略図

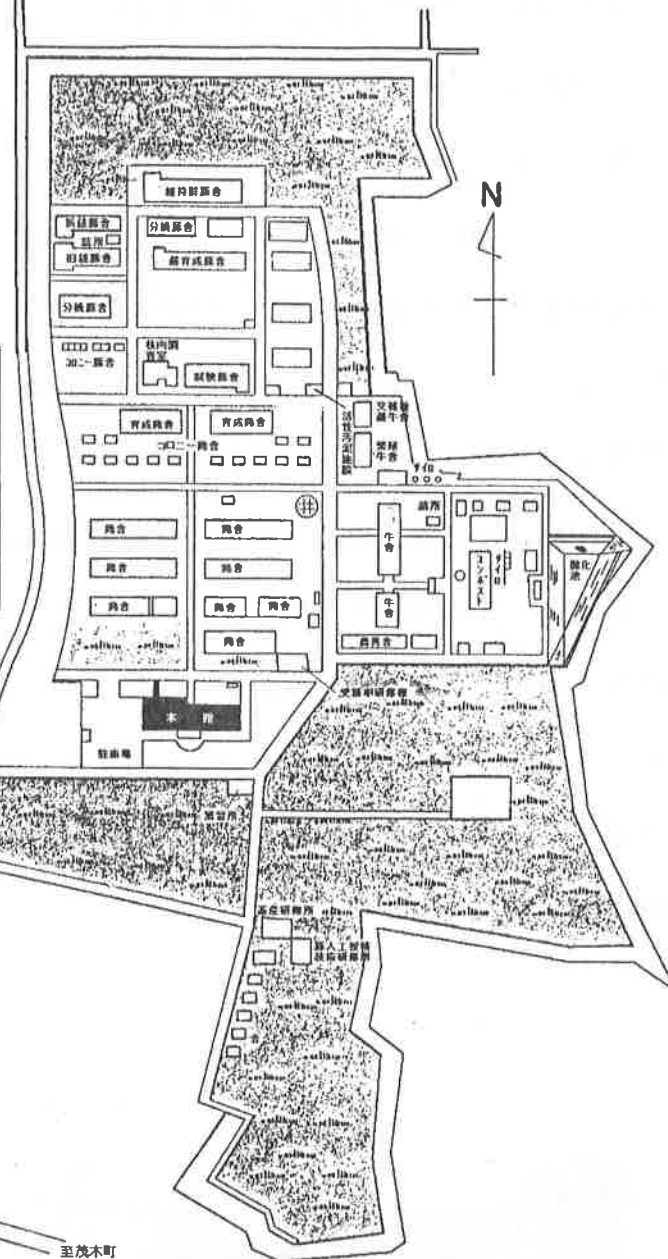



■ JR宇都宮駅から

● JR関東バス（西口）

1. 茂木行乗車50分芳賀高校前下車徒歩10分
2. 祖母井行(水橋経由)乗車約50分下の原下車徒歩20分

● 車（東口） 約30分





畜産試験場だより No.10

平成10年4月15日 発行

栃木県畜産試験場

〒321-3303 芳賀町稲毛田 1917 Tel 028-677-0301